

第6回指宿枕崎線（指宿・枕崎間） の将来のあり方に関する検討会議

会 次 第

日時：令和8年5月12日（火）10:00～

場所：鹿児島県ホテル自治会館 会議室 403号室

1 開 会

2 挨 拶

指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議
会長（鹿児島県総合政策部参事兼交通政策課長）

3 報告

指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議規約
の改正について

4 議 題

- ・ 令和8年度実証事業について
- ・ 令和7年度 JR 指宿枕崎線（指宿・枕崎間）検討調査結果について

5 意見交換

6 そ の 他

7 閉 会

第6回 指宿枕崎線（指宿・枕崎間）の将来のあり方に関する検討会議 出席者名簿

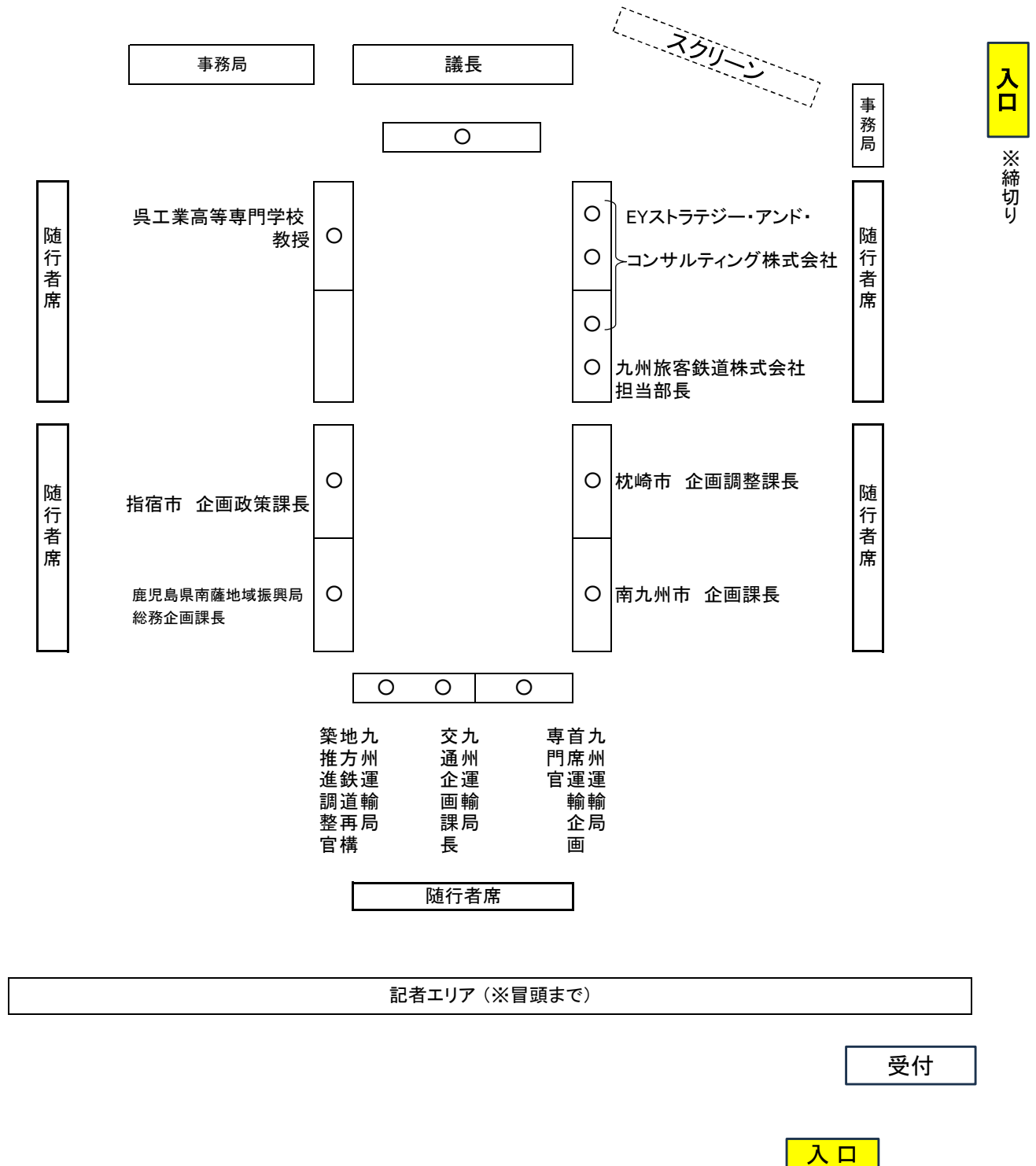
	団体名	職名	氏名	備考
1	鹿児島県総合政策部交通政策課	参 事 兼 交 通 政 策 課 長	鈴 木 圭 祐	
2	鹿児島県南薩地域振興局 総務企画部総務企画課	総 務 企 画 課 長	竹 之 内 智	
3	指宿市総務部企画政策課	企 画 政 策 課 長	東 忠 孝	
4	南九州市企画課	企 画 課 長	葛 迫 亮	
5	枕崎市企画調整課	企 画 調 整 課 長	箆 原 正 二	
6	九州旅客鉄道株式会社 総合企画本部 地域交通まちづくり部	担 当 部 長	中 島 剛 志	
7	呉工業高等専門学校 環境都市工学分野	教 授	神 田 佑 亮	

オブザーバー

1	国土交通省九州運輸局 交通政策部交通企画課	交 通 企 画 課 長	小 堀 ま ろ り	
2	国土交通省九州運輸局 鉄道部	地 方 鉄 道 再 構 築 推 進 調 整 官	津 留 崇 明	
3	国土交通省九州運輸局 鹿児島運輸支局	首席運輸企画専門官 （企画調整担当）	榊 登 志 幸	

第6回指宿枕崎線(指宿・枕崎間)の将来のあり方に関する検討会議 配席図

時間:令和8年5月12日10:00~12:00
於:鹿児島県ホテル自治会館 403会議室



貨客混載実証事業について

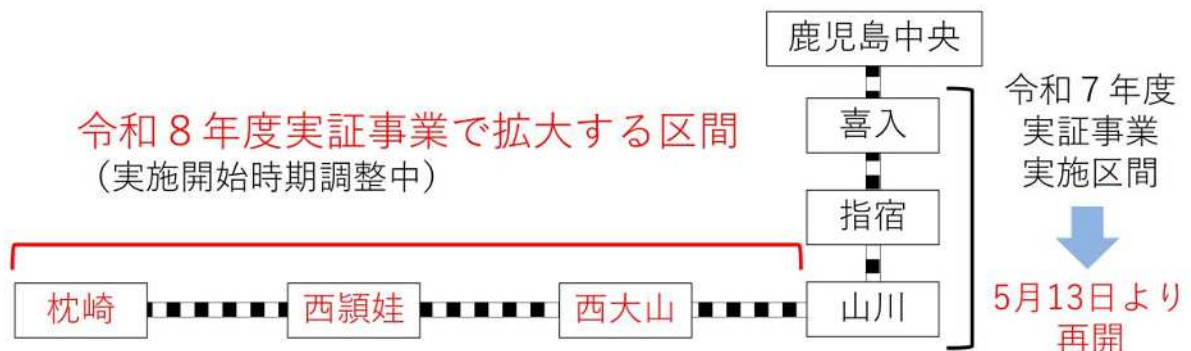
令和8年度は、令和7年度に実施した貨客混載実証事業から対象区間を拡大し、指宿枕崎線全区間（鹿児島中央～枕崎間）において荷物輸送が可能となる。

【施策概要】

- ・ 指宿枕崎線の定期列車を活用し、地元商品の輸送・販売を行うための貨客混載実証事業を実施
- ・ 荷物輸送区間を鹿児島中央～枕崎に拡大（昨年度：喜入⇄指宿・山川で実施）
- ・ 貨客混載を広く周知するための広報活動やイベント等を実施

【施策の狙い】

- ・ 地元事業者の販路拡大・収益獲得、地域産品の輸送コスト削減
- ・ 地域産品の魅力発信を通じた、地域のファン層拡大・関係人口の増加
- ・ 成功体験を通じた、地域全体で取組む意識醸成、ビジネス意欲の喚起



～貨客混載実施イメージ～



沿線3市（指宿市、南九州市、枕崎市）が提案する実証事業について

令和7年度は、まずはスモールスタートを目的として、貨客混載事業、サイクルトレイン事業、SNS等による地域の情報発信、駅舎にぎわい事業の4つの実証事業を、県及びJR九州が中心となって実施した。

その結果、令和7年度の検討会議において、令和8年度は、地域が主体となり市民を巻きこむ観点で取組を推進していくことが重要であるとの意見が示された。

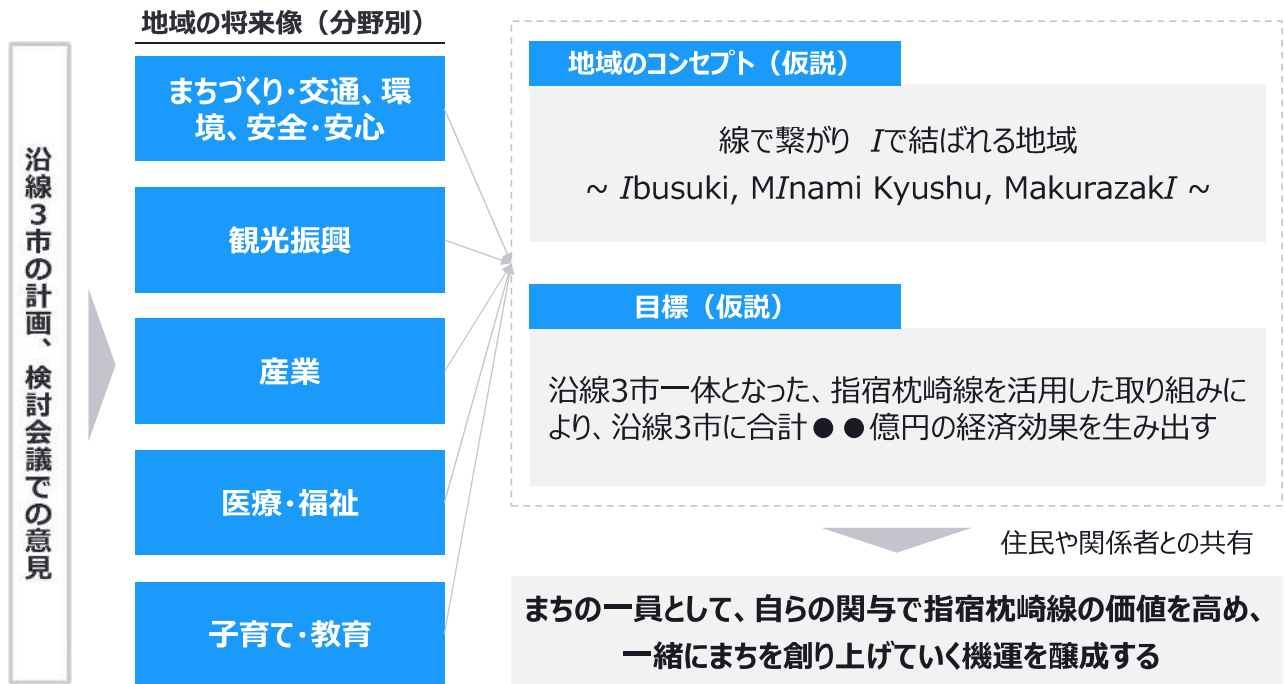
このため、令和8年度は、沿線3市が主体となり、市民を巻き込むことを意識した実証事業を実施する方向で検討を進める。

令和8年度実証事業案（沿線3市提案分）

	指宿市	南九州市	枕崎市
名称	集まれ！指枕ファン ～JR西大山駅で指宿枕崎線ファンミーティング開催～	ふるさとミライカレッジ実証事業	鉄道がつなぐ人とまち活性化事業
概要	・対面とWEBのハイブリッド形式でファンミーティングを開催（今ある魅力、将来の活用など、自由に語り合う） ・西大山駅を拠点としたマルシェの開催 ・「おもてなし活動」や「沿線の清掃活動」など、ファンが中心となる活動の実施	・学生のフィールドワーク等を通じた地域産品の活用方法、販売を学ぶ機会の創出、地域との課題の共有 ・地域のにぎわい創出に向けた駅舎の機能高度化	・関係人口の創出・拡大に関する取組や、イベント列車等においてスマホアプリ等を活用し、地域通貨を付与 ・地域通貨の沿線市内店舗での利用 ・地域通貨を通じた交流、食体験等の実施
期待される効果	・市民や指宿枕崎線のファンが集う場を提供することで持続性のあるつながりの創出 ・指宿枕崎線の運営に関わっている実感を持たせることで指宿枕崎線の価値の再認識	・学生の新たな視点を活かした取組みにより、地域産品の付加価値向上及び販路拡大 ・地域における消費拡大及びにぎわいの創出	・沿線地域への来訪機会の増加（関係人口の創出・拡大） ・継続的な需要の掘り起こし ・地域通貨の流通による地域内での消費の促進、地域経済の活性化

指宿枕崎線の沿線地域として目指す地域のコンセプト・目標

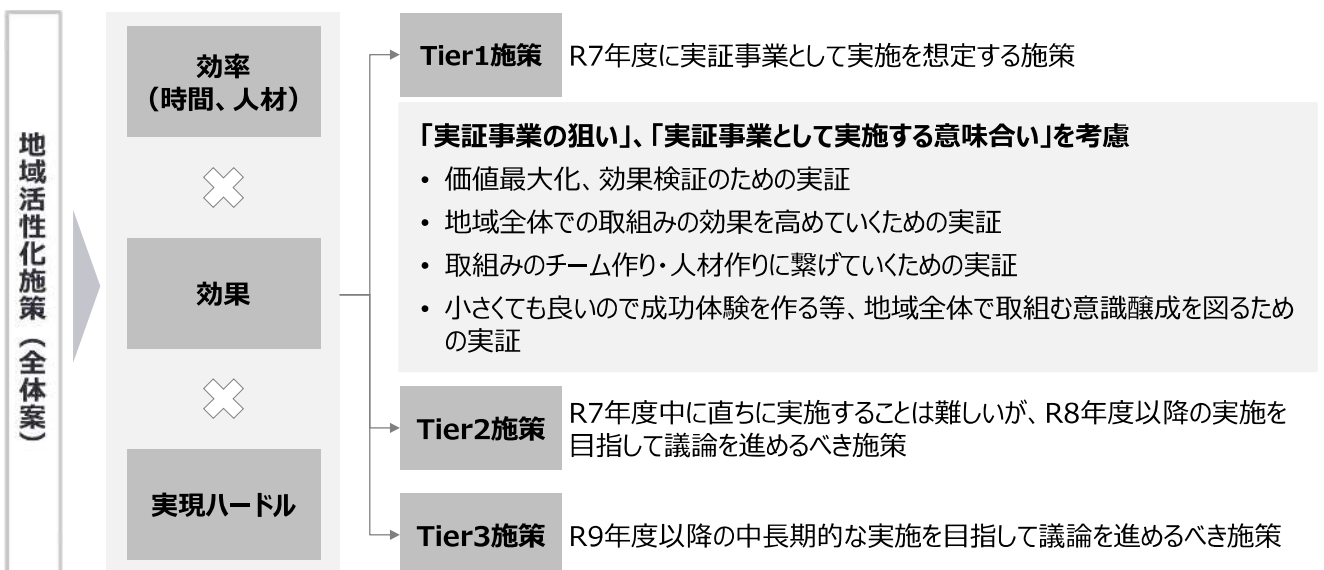
指宿枕崎線の沿線3市が一体となって取り組みを進めるにあたり、分野ごとに目指す地域の将来像を設定し、それらを束ねる地域のコンセプト及び関係者の共通認識とする目標について仮説設定を行った



指宿枕崎線を活用した地域活性化施策の優先順位の分類

検討会や座談会で出された多数の施策案について、以下の観点から分類を行い、その一部として実証事業をどのような観点で活用していくかも同時に検討した

地域活性化施策の分類



R7年度に実施した指宿枕崎線を活用した実証事業

Tier1施策の内、7つの施策を実証事業の候補として選定し、R7年度は4つの実証事業を実施した

■ R7年度の実証事業

	実施概要	効果
シンボル駅づくり	・ 西瀬娃駅前広場で「駅弁まつり」、「立ち飲みイベント」を実施【3月6日(金)～3月7日(土)】	・ 来訪 320人 ・ 出店者売上 357,000円
貨客混載事業	・ 指宿市内の店舗商品を定期列車で輸送し、喜入駅構内のカフェでベーグルを販売【2月18日(水)～】	・ 売上：17,496 円/回
サイクルトレイン	・ モニター参加者が沿線各地の観光スポットを周遊する企画を実施【1月31日(土)～2月1日(日)】	・ 参加人数 54名 ・ 観光消費 6,797円/人
SNS等での発信	・ 多言語デジタルサイネージ設置（西瀬娃駅） ・ Google Business Profile新規登録（南九州 1、枕崎21） ・ 鉄道系YouTuber “東京走著瞧”（台湾）とのコラボ企画	—

■ 上記の他、実証事業の候補となったTier1施策

パークアンドライドの導入・拡充

カーシェアの導入

シンボル駅づくり（副駅名）

指宿枕崎線が有する社会・経済的価値の推計上の留意点

価値推計式	基準値	・ 公表値、統計値など
	×	
	パラメータ値	・ アンケート結果など

【推計プロセスについて】

- 基準値について、元となる公表値や統計値が不足する箇所については、合理的な仮定に基づく補正を行った
- パラメータ値について、R7年度実証事業の結果を一部活用したが、推計に用いるサンプルとして不足する箇所については、合理的な仮定に基づく補正を行った
- 一部の価値は、他の価値と受益者及び受益内容が重複するが、重複部分のみを切り分けて除外するための根拠データが不足するため、より大きい価値に全て内包されると仮定し、小さい価値は集計から除外した

【推計結果について】

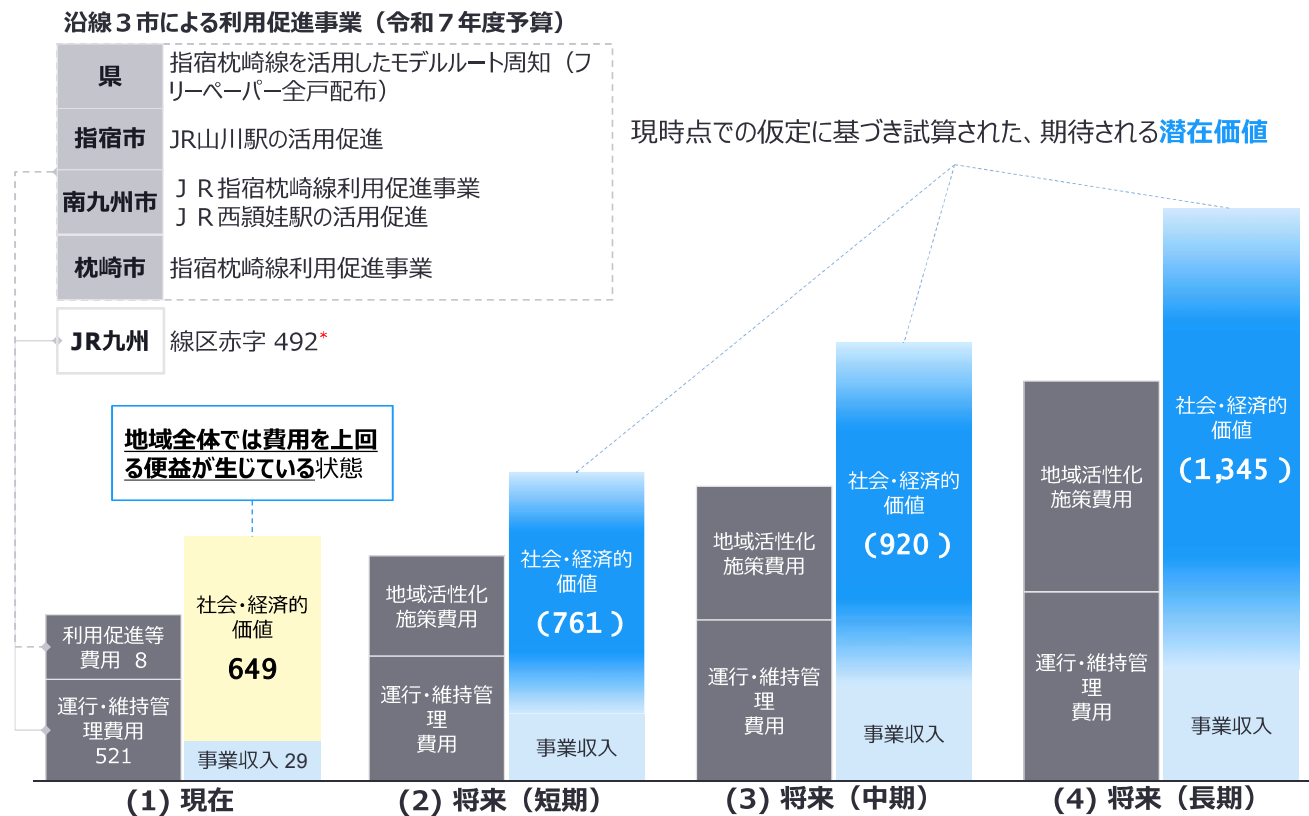
- 本資料での社会・経済的価値はR7年度時点で入手可能であった情報に基づき、仮定や補正を行った上で推計した値であり、客観的事実や将来の価値の発現を保証するものではない
- 従って、今後、公表値や統計値、アンケート等による情報の充実、地域活性化施策の展開及び効果測定に応じて、都度更新し、関係者間での議論を深めるために用いることを意図したものである

指宿枕崎線が有する社会・経済的価値の推計結果

分野	金銭化指標	現在	短期	中期	長期
まちづくり、交通	マイカーとあわせた移動の選択肢があることによる「住みやすいまちづくり」への貢献	341	437	437	648
安全、安心	「交通事故のないまちづくり」への貢献	2	4	6	7
観光振興	「日本最南端のJR路線」のある観光地としてオンリーワンのブランド創出	211	211	340	551
産業	地元生産者の販路拡大を通じた「産業振興」への貢献	-	1	8	8
	人材確保を通じた「地元産業の確保・維持」への貢献	7	9	12	15
医療、福祉	家族の送迎負担軽減による「通院支援と仕事・趣味の両立」への貢献	14	17	26	26
子育て・教育	親の送迎負担軽減による「子育て・教育のしやすいまちづくり」への貢献	29	32	35	35
	自力で通学可能な学校が増えることによる、「学生の域外流出抑制」への貢献	46	49	56	56
金銭価値合計（百万円/年）※		649	761	920	1,345

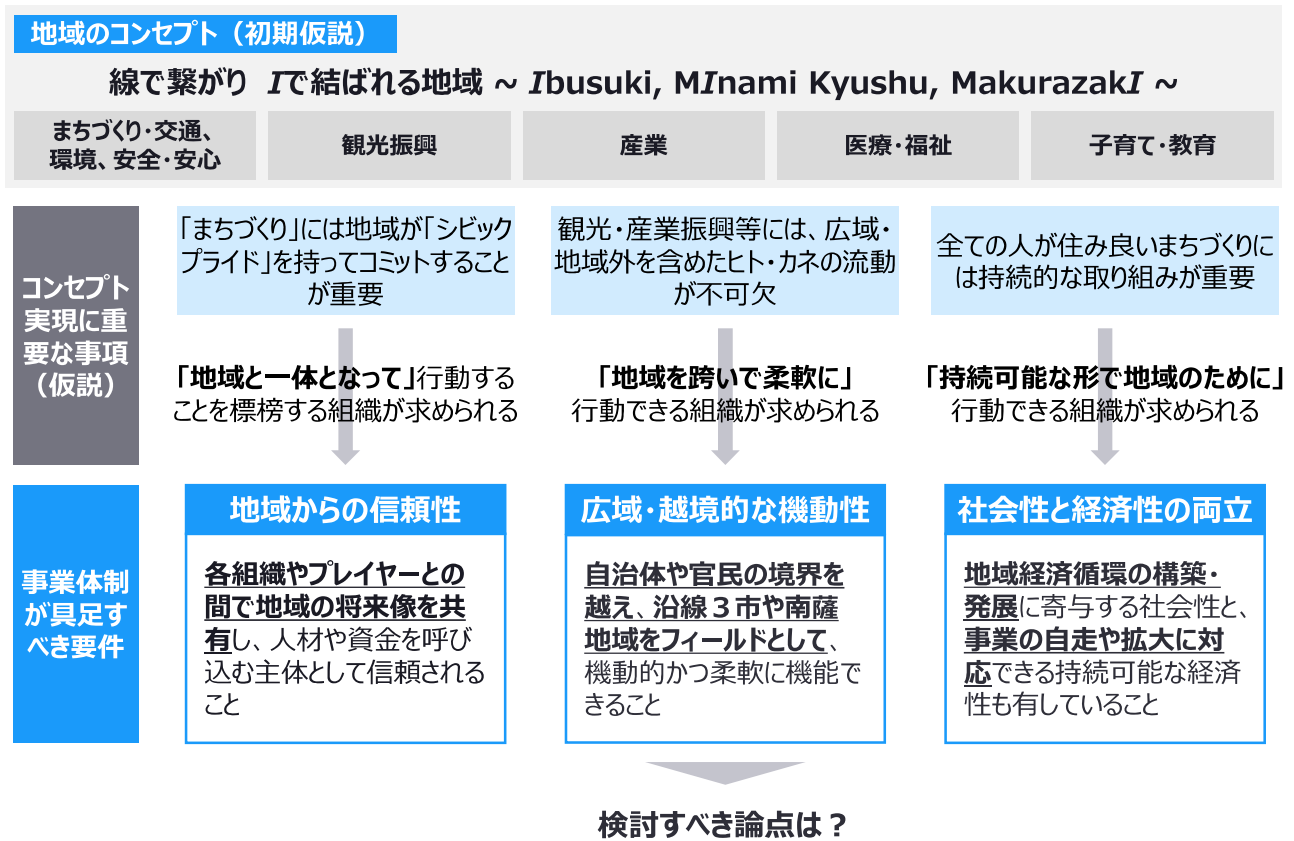
※：可視化した社会・経済的価値の内、金銭価値化を行った価値のみを抜粋

指宿枕崎線が有する社会・経済的価値の推計結果

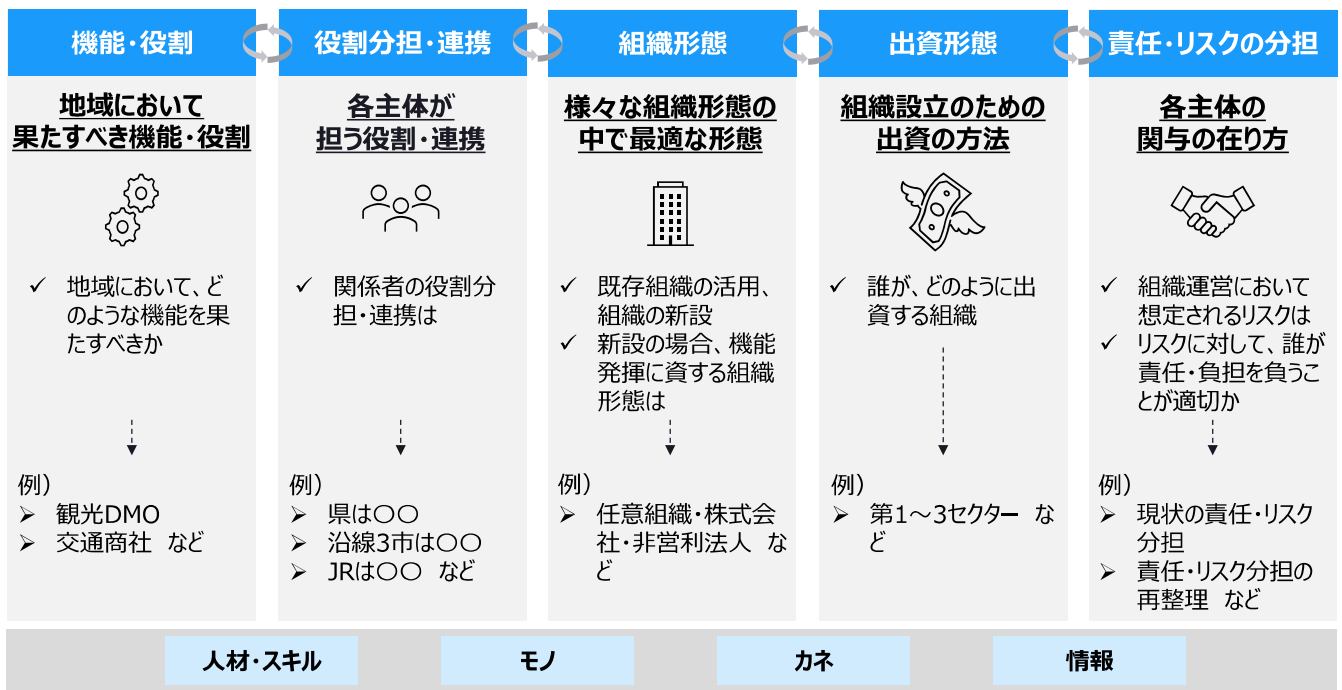


* 2024年度線区別収支(JR九州)

地域と指宿枕崎線の持続可能性を高めるための事業体制が具足すべき要件



地域と指宿枕崎線の持続可能性を高めるための事業体制に関して検討すべき要素



「地域と指宿枕崎線の持続可能性を高める組織」の前提に照らした最適な組み合わせによる、目指すべき事業体制の方向性を導出する

今年度の調査事業の結果を踏まえた次年度以降に向けた提言



施策推進力の強化

- 初期段階に短期集中で実施方針を決定し、各所調整含めた準備の早期開始
- 実施した実証事業の拡大・発展に加え、沿線3市を中心とした広域連携による施策の推進



施策実効性の強化

- 多様なプレイヤーや、他分野での関連施策と連携した、鉄道資産活用に拘泥しない施策検討
- 地域内外での人材育成・活用・募集による、単発施策から継続性のある地域ビジネス化への発展
- ニーズの把握と施策への反映、情報発信の充実による、地域住民への訴求力強化



検討体制の強化

- 将来ビジョンやあるべき姿からのバックキャスト思考で、より俯瞰した全体マネジメント機能の補強
- 価値算定の精度向上と、施策の実効性向上との相乗効果、好循環の創出
- 地域と指宿枕崎線の持続的運営に繋がる事業体制の本格的議論